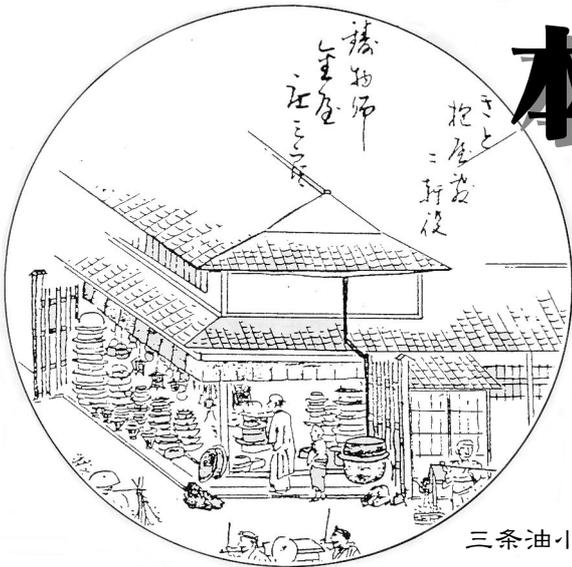


# 本能まちづくりニュース

第21号 平成16年2月20日発行

本能まちづくり委員会  
委員長 西嶋直和

E-mail: post@honnoh.net  
URL: http://www.honnoh.net



三条油小路町絵図より鑄物師釜屋庄三郎方

## 京都景観・まちづくり賞受賞!

2003年12月14日、京都景観・まちづくりセンターで第2回景観・まちづくりコンクールの表彰式が行われ、景観・まちづくり部門において、本能まちづくり委員会が優秀賞、歩いて暮らせるまちづくり推進会議が市長賞を受賞しました。

これは、これからの京都の景観・まちづくりに寄与する建造物の設計や、コミュニティ活性化を図る地域住民の主体的な実践活動を、京都市が顕彰するもので、本能まちづくり委員会は住民間で合意形成を図り、地区計画やまちづくりのしおり作成などに到達した取組が評価されました。また、歩いて暮らせるまちづくり推進会議(今年度の代表は西嶋直和氏)は、特に京都市長賞を受賞しました。昨年までに4回の「まちなかを歩く日」を実施。本能学区では「おいでやす染めのまち本能～公開工房ガイドツアー～」を開催していますが、京都都心部を「歩いて楽しいまちにしよう」という9学区にわたる住民の知恵を生かした継続的取組を評価されました。

表彰式の後、シンポジウム『これからの都市景観の創造にむけて』が行われ、5人のパネラーの中に西嶋



表彰状を受ける中村副委員長

氏が加わりました。

☆建築と景観の関わりについては、建築をまちをつくる活動のひとつとして考え、周囲を見渡して



シンポジウム「これからの都市景観の創造にむけて」

「向こう3軒両隣」とどう位置づけられるかを、施主や設計者、関係者みんなが議論し、デザイン・建築作法を考えていくよう努力することが必要であろう。主役としてのシンボリック建物を建てればよいという時代は終わった。脇役があつまって調和のとれたものをつくらねばならない。

☆「歴史都市京都」というのは、ただ世界遺産を守るのみではなく、まち中全体が歴史都市であることである。古い世代に新しい世代が加わって自発的に活動できる団体をつくり、自分達のつくっているまちがどうなっているのかを意識的に考え、「京都は嗜みのきいたまちなのだ」ということを次の世代に伝えて行くな、歴史的都市として誇れるだろう。

☆「周りの人が自分のことを見ている」というお互いのまなざしへの配慮を持つ必要がある。  
☆人材を引き込むことが大切。住民・企業・行政・NPO等が一体となった活動を継続していきたい。

等、私達のまちづくりのヒントになる意見が出されました。

まちづくりはお上がするものではなく、他人任せでももらうものでもありません。住んでいる市民がつながりあって主体的、継続的に取り組んで始めて、自分達のまちができるのだと思います。受賞は、まちづくりの目的や結果ではなく、過程の一コマに過ぎず、これで消滅しては意味がありません。今後も皆で手間暇かけて、次世代に住み

継がれていくような、「本能学区」というコミュニティをつくっていきましょう。

なおこの近辺で受賞されたところに、中京中学のPTS活動があります。保護者・先生・生徒が一緒になって行った押小路花壇の作成です。押小路通千本東入る北側歩道は四季の草花が目を楽しませてくれます。お近くを通られた時ご覧下さい。

## 柳水町年末の行事

柳水町では、昨年暮れに「お餅つき大会とクリスマス会」を行いました。本町内は、3年前のマンションの建設で大所帯になり、子供もどんどん増え、町内の構成も大きく変わってきました。多くの町内会行事がありますが、マンション住民は、「ももとの住民の方に用意していただいたものに参加する」という受け身の立場で町内の方々と接するという状況でした。そのようにして3年が過ぎたのですが、試みとしてマンション住民が主体となった新企画が持ち上がり、自然と町内全体で動き出しました。



馬場さん工房まえでの「お餅つき大会」

の中に入れてもらい「いただきます!」。あっという間になりました。いく臼かついた後は、丸めてお持ち帰り用を作りました。

次のクリスマス会は、マンションの集会室へ移動し、初めに大人も子供もシャンペンでポンッと景気よく乾杯です。大人はおしゃべりに、子供たちは持ち寄ったおもちゃで飽きることなく遊びました。宴たけなわなその時、なんとトナカイとともに北の国のサンタさんが2人も登場です。大きな袋を背負い外国語で話をするサンタさんに、子供より大人のほうが大喜びでした。子供たちは一人ずつ名前を呼んでもらってプレゼントを頂きました。大人たちは「来年は大人にも持ってきてや!」と声をかけるありさま。サンタさんとの記念撮影もあり、あっという間の2時間でした。終



トナカイさんと二人のサンタさんの登場

押しつまった12月23日、1時から3時までが「お餅つき大会」、3時から5時までが「クリスマス会」という一粒で二度おいしいスケジュールです。まずはお餅つきですが、馬場さん工房前で行いました。石臼に蒸したお米が入ってブワーと湯気が立つと、皆、興味津々です。ビギナーのために解説も飛び出しました。コヅキが済み、杵の音が響きはじめるとワクワクしますね。おおかたつけたところで、子供たちもサポートしてもらって最後の仕上げです。つきあがったお餅をすぐさま、あんこ・きなこ・大根おろし



おもちゃがくっついたア〜

ってみれば、飛び入り参加も含めて総勢90名余りと盛況でした。

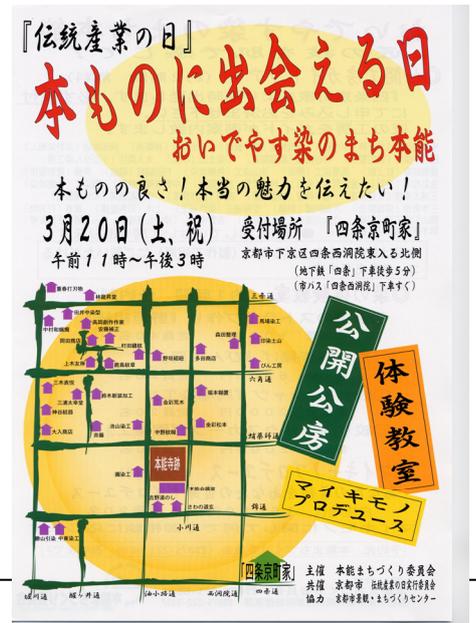
初めての試みで、一ヶ月あまりと短い準備期間でしたが、「皆で作っていきこう」の姿勢のもと、お餅つきに関しては馬場さんを中心に、クリスマス会についてはマンション有志を中心にと、大まかに分担を決めて準備しました。マンション住民も、今回ばかりは当日のみのお客さんではなく、共に意見をお話し作り上げていくよい経験ができ、地域との絆が強くなったと感じました。歴史ある町内で、マンション世帯はまだほんのひよっ子ですが、どんと皆様の胸を借りて徐々にこの地に根付いていきたいものだと思います。(中村麻子)

# 「本ものに出会える日」にむけて

3月20日は伝統産業の日です。今年も去年同様、まちづくり委員会では「本ものに出会える日」を開催し、伝統産業振興に地域として協力したいと考えています。

昨年11月の「おいでやす染めのまち 本能」に参加された、若い研究者の大槻さんから、私達が元気づけられるようなおたよりをいただきました。

\*大槻さんは、昨年11月「日常的な交流と住みよいまちづくり」について、本能学区の5ヶ町(柳水・六角油小路・山田・藤西・越後)と錦堀川・蟻螂山町のマンション住民に、アンケート調査を行いました。調査ご協力ありがとうございました。



## 公開・体験工房ツアーに参加して

本能学区で調査をさせていただいた関係で、今回ツアーに参加させていただきました。ボランティアという形だったのですが、お手伝いも忘れて、一人の見学者としてひたすら堪能させていただきました。

それにしても、本能学区に残る匠の技の見事さ、そして価値の高さには、正直頭を殴られるほどの衝撃を受けました。見慣れたはずの町家の奥に、こんなにも繊細で優美な世界が広がっているなんて...鳥肌が立つのを抑えられず、僣越ながら「なんとかこの技を残したい!!」と心の底から感じました。また同時に研究者として、現場を訪れ、声を聞き、自分の目で見ることの大切さを再認識させていただきました。机上の空論に陥りがちな研究者ですが、実際に自らが体験することによって初めて実効性の高い研究ができることを教えていただいたような気がします。

現在、伝統工芸に関心のある学生はとても多いです。しかし残念ながら、実際に匠の技にふれる機会がないばかりに、いつしか関心を失い、「大切だけれど消えていくのも仕方がないもの」といった、ありていの結論に落ちてしまいがちです。公開・体験工房ツアーのような取り組みが増えていき、これからの若い世代に、理性でなく、心と肌で「匠の技の素晴らしさ」を感じられる機会をどんどん提供していけば、十年後、二十年後、伝統工芸の未来は明るいのではないかと、そんな希望を感じさせていただいた2日間でした。

貴重な体験をどうもありがとうございました。

立命館大学政策科学研究科後期課程3回(政策科学部助手) 大槻知史

本能まちづくり委員会「本もの推進会議」では、今までの参加者アンケートの結果、多かった要望に応じて、①公開工房ガイドツアーとして伝統産業工房をめぐるコースと着物が出来上がるまでの工程を順にたどるコース ②4種類の体験教室 ③マイキモノプロデュース を行おうと準備を進めています。

昨年11月の「おいでやす染めのまち」に公開して下さった工房の皆様、そして過去に公開していただきながら、ご都合が合わずご参加いただけなかった工房の皆様、さらに、新たに公開してい

ただけそんな工房の皆様、是非3月20日「本ものに出会える日」の公開工房にご協力いただけますようお願いいたします。

本能学区で行われている「本もの」のものづくりへの理解を深め、「本もの」のよさを知り、本能の地域性を再発見するために、地元の皆様こそ、是非足をお運び下さい。拠点は、四条通西洞院東入北側『四条京町家』です。



四条京町家

本能まちづくり委員会の  
次回開催は

平成16年3月1日(月)午後7時から  
場所 本能会議室 当日飛び入り歓迎!!

## 》》》 本能安全点検マップを作成 <<<

「安心・安全な本能学区」をめざして今年度発足した本能自主防犯設立準備委員会・本能生活安全会議が、昨年9月に実施した「本能防犯アンケート」では、学区の皆様方のご協力のおかげで、32.6%のご回答を得ました。結果の概要は、既に11月、全戸配布でご報告申し上げましたが、その中で、皆様の関心が集ったことは、①交通問題②暗い夜道の不安③希望し、協力する活動として防犯パトロールと挨拶・声かけ運動、でした。

そこで、11月末の生活安全会議で、学区内の点検を行いました。

①交通問題では、学区内で一番危険と感じられている場所は、西洞院蛸薬師の交差点。ミラーは3本立っていますが、角まで家があって見通しが悪く、停車線を越えて進入する車・右折左折する車があって、はなはだ危険です。通学路としては、更なる対応策を考えることになりました。

学区内の路上駐車や交通量自体の問題は、別に検討する必要があります。

②暗い夜道について。

昨年暮れの12月24日、再度、本能学区の夜間パトロールを行いました。学区内のたて・よこの通りをくまなく回ると1時間余。幸い寒さの緩んだ日だったので、身体が温まりました。途中気づいたことは、人気の少ない通りのゴミ不法投棄・電球の切れた街灯・点灯されない門灯・真っ暗なガレージ・無灯火の自転車走行等でした。11月に行った点検の時から依然として電球が切れたままの街灯がありました。

京都市では市道のほぼ60m間隔で電柱に街灯を設置しています。市の管轄するこの種の街灯については、切れた場合、お気付きの町内の方は電柱番号を中京区役所地域振興課または西部土木事務所にご連絡下さい。市が補修してくれます。

ご町内で、街灯を設置されている通りは明るいですが、24時間パーキングと自動販売機のネオンで明るさが保たれているという通りすらありました。

門灯は、家族全員の帰宅後は消して就寝されるお宅も多いかと存じますが、夜中も点灯して、朝起きて消すという習慣にかえていただくと、通りは大分明るくなるように思いました。

外灯が明るいから溜まり場になる、あるいは夜間外からの光が迷惑という苦情が出たようですが、24時間稼働している社会状況で、暗さへの不安が問題となっている場合です。表に面した窓にはカーテン・ブラインドをつける等々の対応策

をお願いします。なお、真っ暗だった本能校跡地の工事堀周囲には街灯が設置され、明るくなりました。

また、夜間無灯火の自転車は、暗がりでは歩行者・車から見分けがつかず危険です。これは乗っている本人にとっても危険なことですし、交通違反です。パトロール中、おまわりさんに注意されても点けない人が結構ありました。

③防犯パトロールは、年間を通じて実施する予定です。危険情報などありましたら、各町内に防犯推進委員がおりますので、お寄せ下さい。子ども達の安全については、通学時間帯に門掃きなどするとか、お店番のついでに、通りに向けて、見守り・声かけをしていただけるとありがたいです。生活に溶け込んだかたちで、自然体の声かけ・挨拶の実践が望まれます。

生活安全会議では、以上のような点検結果を話し合い、地図に書き込み本能安全点検マップを作成しました。自治連合会ではこれに基き、来年度結成される「自主防犯委員会」で、具体的な改善策を検討・提案していく計画です。



本能自主防犯設立準備委員会・本能生活安全会議のようす

明るいまち・きれいなまち・声かけのあるまちには、犯罪は少ないといわれています。本能学区のみんなの手で、出来る範囲のことをこころがけて、安心・安全のまちをつくりましょう！

本能自主防犯設立準備委員会 岡田 稔

編集後記 ◎ あわただしく過ぎ去る年末に、大変楽しい町内会行事が行なわれました。マンションにお住まいの皆さんも、どしどし行事に参加しましょうよ。 あ

◎ 本能校跡地の工事堀が張り替えられ、いよいよ新施設の建設工事が始まりました。以前のように、皆で集える場ができるといいですね。N村

◎ 「安心・安全の本能学区」は自分たちの手で作りましょう。無理をせず、生活の中で自然体で取り組まなければ息切れがします。あせらずに…。 MO